

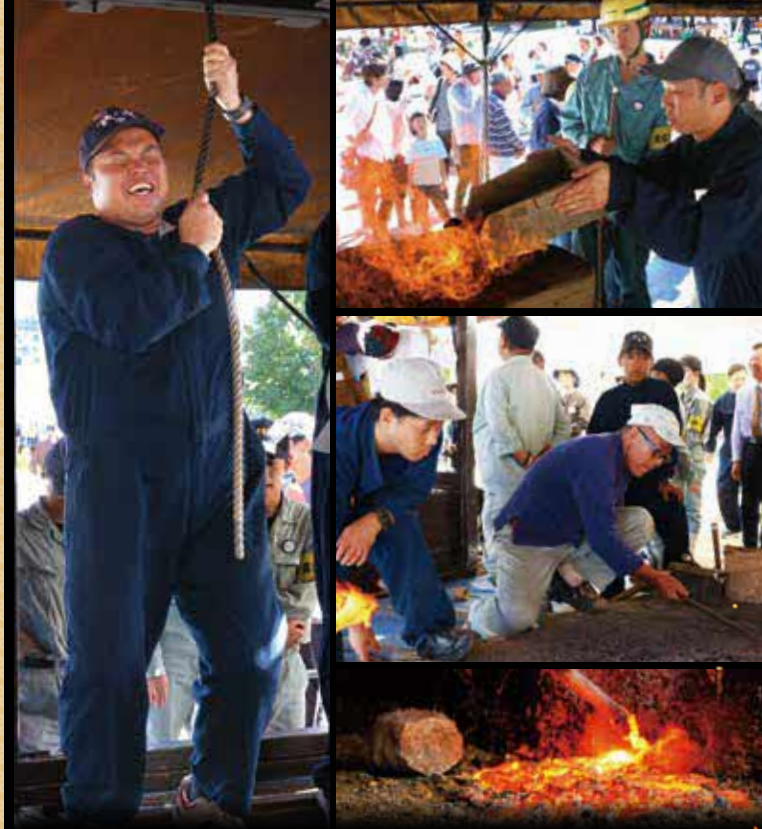
古来の技を現代につなぐ
古代にから復元操業

十月三日〜五日



奈良時代のサイズの炉で行う、たたら復元操業。
操業を行うまでには、会場準備を含め1週間程度要します。粘土と真砂土を水で練りブロックをつくる「釜土づくり」(①、②)、操業でできた鉄が沈んでしまわないよう土台を炭で押し固める「下灰作業」(③)、釜土ブロックを積み炉をつくる「築炉」(④、⑤)など、工程は複数。

今年度も一般参加者を募って操業を実施するなど、たたら文化の振興や継承に力を入れています。



たたら操業でつくられるのが鉞(⑥)。
鉞に含まれる数種類の鉄のうちの
1つが玉鋼(⑦)です。

